

2006 年度中間決算説明会

主な Q&A

Q：国内法人貸出が減少しているが、シェア調整の影響はどうか。

A：シェア調整の影響はほぼ終了したものと見ている。また、不良債権減少による影響も低下していることから、下期以降は貸出残高が大きく減少する要因は無いものと考えている。

Q：海外貸出が伸びているようだが、新規貸出を伸ばしている影響か。海外貸出のспレッドが大きく下がっているが、今後の見通しはどうか。

A：06 年上期は海外貸出が 8,000 億円ほど増えているが、日系・非日系ともにバランス良く伸ばしている。貸出спレッドは下がっているが預金спレッドは上昇しており、これらを合計した利ざやは、05 年上期比若干上昇している。

Q：国内預貸金利回り差が 05 年上期対比で 6 ベーシスポイント低下しているがどう見ているか。

A：短期プライムレートベースの貸出についてはほぼ予定通りの金利引上げが出来ている。一方で、銀行間競争の影響などから、顧客との交渉により利ざやが縮小するケースもある。今後の見通しについても楽観視はできないが、下期については、上期より状況が良くなるのではないかと見ている。
なお、06 年上期の預貸金利回り差を 05 年下期との対比で見ると、1 ベーシスポイント程度の低下に止まっており、下げ幅は縮小している。

Q：個人の預り資産が伸び悩んでいるように見えるがどうか。

A：投信や年金保険については市況の影響等から 06 年上期は若干伸びが鈍化しているが、証券仲介は、証券からの出向者を今期 1,000 名体制に向けて増員していることもあり、高い伸びを示しており、運用商品の販売が頭打ちになるには未だ早いと考えている。

Q：06年上期の営業費に含まれる一時的統合コストの金額はいくらか。また、統合コストの下期の見通しは。

A：営業費に含まれる統合コストは約400億円であり、前年同期に比べ約200億円増えた。この統合コストにはシステムの減価償却費や外部委託費が含まれており、06年度通年では約700億円を見込んでいる。

Q：アコム投資損失について、下期以降にも影響が出るのか。

A：アコム、UFJニコスともに上期に大幅な引当金の積増しを実施していることから、下期に新たな影響が出るとは考えていない。